

電気柵による感電事故を防ぐため、正しい使用をお願いします。

7月19日に静岡県で動物よけの電気柵による感電死亡事故が発生しました。事故を防止するため、放牧等で電気柵を設置、使用する場合は、次の事項の遵守をお願いします。

適正な電源装置の使用

電気柵の電気を30ボルト以上の電源(家庭のコンセント等)から供給するときは、**PSE** 電気製品の安全規格を満たすPSEマーク付きの電源装置を使用してください。

漏電遮断器の設置

電気柵を公道沿いなど、人が容易に立ち入れる場所に設置し、30ボルト以上の電源(家庭のコンセント等)から電気を供給する場合は、危険防止のためPSEマーク付きの漏電遮断器を設置してください。

危険表示

電源の種類や電圧の大きさにかかわらず、必ず周囲の人が容易に目で確認できる位置や間隔、見やすい文字で、危険であることの表示を行ってください。

山梨県東部家畜保健衛生所

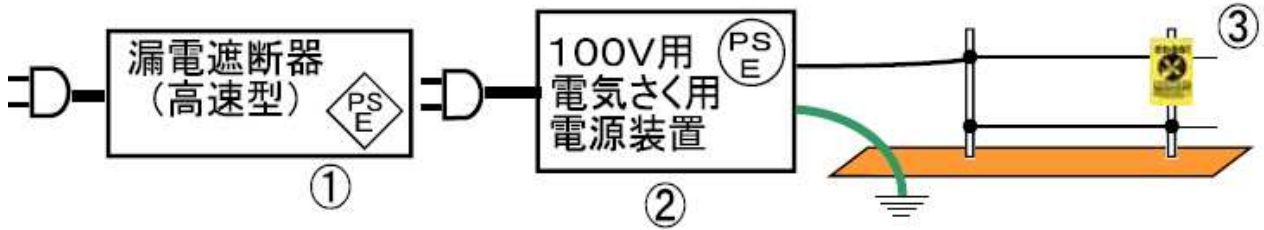
電話・・・055-262-3166 FAX・・・055-262-3108

夜間の連絡は・・・090-5535-8005

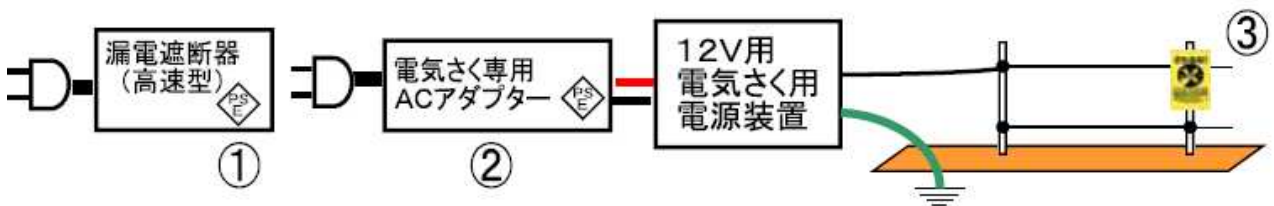
土日・休日の連絡は・・・090-5535-8005 または090-5544-7868

電気柵の安全な使用について(正しい接続方法)

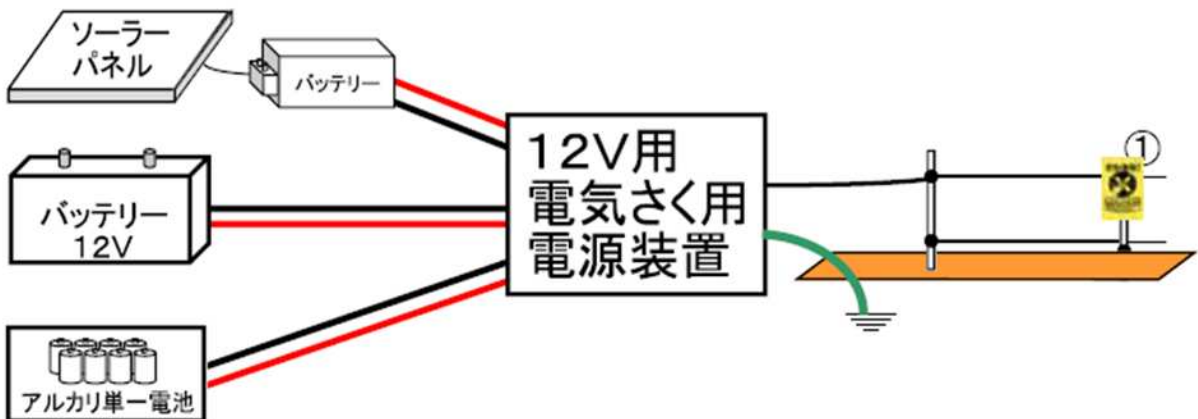
1. AC100Vを電源とするもの



2. ACアダプターを電源とするもの

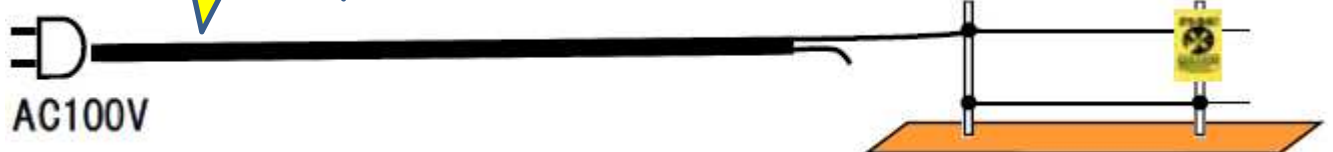


3. 電池(乾電池、バッテリー、ソーラー等)を電源とするもの(これらを使用する場合、PSEマークは不要です)。



次の方法は
絶対禁止です

AC100Vを直接電気柵へ流すことは法律で禁止されています。重大な事故につながりますので、絶対に行わないでください。



電気柵の点検・維持管理のポイント

電気柵を安全で効果的に使用するため、設置後も定期的に点検・維持管理を実施してください。

【点検のポイント】

- ・柵線や本体関係機器の破損・不備はないか。
- ・電圧が十分か。
- ・漏電していないか。
- ・支柱のぐらつきや破損はないか。
- ・アースやバッテリーのコードが切れていないか。
- ・地際から侵入された形跡がないか。

【維持管理のポイント】

- ・漏電防止のための草刈りをしましょう
草が電線に触れると漏電し、動物への電気ショックが弱まってしまう。
- ・藪の刈り払いで、動物の隠れ家をなくしましょう。
柵のそばの藪は動物の隠れ家になります。
動物は、藪に身を隠しながら侵入できる隙間を探します。
ゆっくり柵の探索をさせないために、柵周辺の刈り払いを行いましょう。

